

平成25年度 後期学校評価アンケート結果のお知らせ

学校評価アンケートの結果をお届けいたします。先日、保護者の皆様・児童・教職員にアンケートをさせていただきました。その集計結果をお知らせします。皆さんの貴重なご意見を今後の本校の教育にいかしていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

児童の結果 (A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない 数値の単位は%)

生活について						
評価項目		A (%)		D (%)		分 析
① 朝、気持ちよく学校に出られる。	低	86		14		前期と比べると数値がやや下がっています。「眠たい」「寒くて起きられない」という意見が書かれてありました。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活の基本を大切に、気持ちよく登校できる朝を迎えたいものです。家庭学習の時間をきちんと決めて「宿題をやりきる」そして、気持ちのよい朝を迎える準備をしてほしいです。
	中	84		16		
	高	86		14		
評価項目		A	B	C	D	
② 困っている友達を助けられた。	低	36	45	15	4	「困っている友達」に手を差し伸べることができるのは低学年のほうが積極的に行えるようですが、AB合わせるとどの学年も80%に近い子どもたちが友達にやさしい言葉かけをしています。今年度、縦割り活動を中心に人にやさしく、困っている人を助けるという取組をしてきました。
	中	28	49	19	4	
	高	14	66	18	2	
③ よくわかる（好きな）教科は何ですか。	低	①体育②図工③算数				「好きこそものの上手なれ」よくわかる教科は、体育だと走るのが大好き、球技が得意、練習したらできるようになって大好きになったという感想や、図工は、本当に手先を使って作るのが好き、描いたり作ったりするのが好きだからという意見が圧倒的です。「よくわからない教科」では、算数がどの学年でもトップでした。〇×がはっきりしている教科だけに「できない」という思いを他の教科以上に強くもつのだと思います。みんながわかる・できる算数の授業をめざして更に努力をしていきます。
	中	①図工②体育③理科				
	高	①体育②理科③算数				
よくわからない（きらいな）教科は何ですか。	低	①算数②国語③なし				
	中	①算数②国語③社会				
	高	①算数②国語③社会				
④ 毎日の授業がよくわかった。	低	47	50	2	1	AとBを合わせて90%を超えています。さらに、学力の定着・向上に向かって、わかりやすい授業、一人一人の子どもが活躍できる授業をめざして教員が研究し続けていきます。
	中	41	52	6	1	
	高	36	58	5	1	
⑤ わからないところは先生に聞けた。	低	38	41	16	5	CとDが低学年では21%、中学年では31%、高学年では41%と高学年になるにつれて増加しています。学習が難しくなる一方で、教師に聞きにくくなる傾向がはっきり出ています。子どもの実態を把握し、授業の工夫改善を図りながら、つまずきを察知できるようにしていきます。
	中	28	41	25	6	
	高	18	41	32	9	

今年度の取組の一つに、「子どもの規範意識を高める」ことがあります。教職員の分掌の一つ生徒指導部が『あいさつを自分からする』『ろうかは右側を歩く』『トイレのスリッパをそろえる(くるりんぱ)』を全児童に身につけさせようと、提案し、教職員全員で指導をしました。日々の声掛け、朝会の話にも盛り込みました。「この3つのことを守るのは何のためですか？それは、相手のことを考えることにつながるのです」という話をしました。今では、ろうかを走りそうになる友達に「走ったらあかん、あぶないやろ」と声をかけています。ほぼ全員の子どもが意識し、半数以上の子どもが行動化できていると思います。靴箱の靴も、へりにきっちり合わせて置くことで、廊下の環境がぐっとよくなりました。

このように、子どもにいろんな力をつけることは、日ごろの声かけや指導を続けていくことが大切だと実感しました。また、1日の3分の2を過ごす家庭の指導が大切なのは言うまでもありません。各ご家庭でも、規範意識を身につけるためのご指導をよろしくおねがいします。

保護者の結果 (A:そう思う B:どちらかといえばそう思う C:どちらかといえばそう思わない D:そう思わない 数値の単位は%)

評価項目		A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	分 析
①子どもは、朝元気に（その子らしく）登校している。	低	81	15	3	1	AとBを合わせて95%を超える結果が出ています。保護者の方が子どもの朝のスタートを大切に思ってくださっている成果だと思います。おうちの人の「いってらっしゃい」の言葉で元気が出るということの意見が物語っています。
	中	82	15	2	1	
	高	75	22	2	1	
②子どもは、自分や人を大切にする気持ちが育っている。	低	55	42	3	0	朝会の学校長の講話の中でも、人として最大の喜びは「人に喜ばれること」とありました。AとBを合わせて95%を超える結果が出ています。子どもたちの優しさや思いやりが育ってきている確かな証（あかし）です。今後もさらに大切にし、伸ばしていきたい一面です。
	中	53	44	2	1	
	高	51	44	4	1	
③子どもが意欲的に学習している姿を確認してきた。	低	44	50	5	1	主に家庭学習の評価だと思いますが、やや意欲が見られない子もいるようです。家庭学習を進んで行えないのにはそれぞれの理由があるはずで。進んで学習する子にするために家庭と学校が力を合わせて個々に対応していきましょう。
	中	39	46	13	2	
	高	38	49	11	2	
④お子さんの得意教科は何ですか。	低	①算数②音楽③体育				子どもたちが、家庭でつぶやいている声が想像できます。保護者様の一言を読むと、「～が好きだから」「～ができるから」と、お子さんが言っているから「この教科大好き」となっているのでしょうか。反対に、苦手教科は、「～がよくわからない」「どうしても～ができない」というものがあるからです。得意、好きと思えることはどんどん伸ばしていきたいし、苦手なことにもいつかわかる、できたと思えるよう授業の工夫をして克服させたいです。ちなみに、国語科は、教職員で重点的に取り組んでいる研究教科です。・来年度も頑張ります。
	中	①算数②体育③理科				
	高	①理科②体育③国語				
④お子さんの苦手教科は何ですか。	低	①算数②国語③特になし				
	中	①国語②算数③社会				
	高	①算数②国語③社会				

保護者の意見（ついた力・つけたい力）

身の回りのことが、今まで以上にできるようになってきました。（ひまわり保護者）  
 毎日宿題があるので、帰宅後すぐに机に向かう習慣が身につきました。（1年保護者）  
 さらにつけたい力は、人のことを考える力・状況判断ができる力・自分の弱い心に打ち勝つ力。（2年保護者）  
 自主的に学習する力・友だちの気持ちを考える力がついてきていると思います。（3年保護者）  
 自ら学ぶ力をつけ、日々の家庭学習を定着させたいと思います。本を読む習慣をつけたいです。（4年保護者）  
 高学年という意識が芽生え低学年の子どもの面倒をみています。責任感がついたと思います。（5年保護者）  
 6年間で物事に一生懸命取り組む姿勢が身につきました。チャレンジ精神も素晴らしいです。（6年保護者）  
 ほかにもたくさんのご意見をいただきました。来年度に反映していきたいと思います。ありがとうございました。

教職員の結果

評価項目	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)	分 析
①しっかり話を聞く子に育ってきている。	30	66	4	0	順調に育っています前期よりもポイントがアップしています。聞くことは学びの基本中の基本です。あらゆる機会をとらえて力をつけられるよう取り組んでいきます。
②自分の思いや考えを話す子になってきている。	22	70	8	0	授業中に、おおいに話し合い活動を取り入れています。まだまだ力がついていません。自分の言葉で考えを述べる学習を重ねていきます。
③子どもに自分や人を大切にする気持ちや態度が育つようにこのような話をしました。	・ された側の気持ちが考えられるように伝えた・ 体の傷はいつかは治るが、心の傷は一生残る・ 言葉は言霊（ことだま）自分がしたことは鏡のように跳ね返ってくる。・ 個人のよい言葉やよい行動をみんなの前でほめました。わからないことは恥ずかしいことではない。				
④学習内容が十分理解できるように学習の進め方のこのようなところを工夫しました。	・ 二人グループを取り入れお互いが交流できるようにした・ 具体物を見せたり、操作をさせたりしながら取り組んでいる。・ めあてと振り返りを行った・ 発言の機会を増やしたり、グループ活動を活発にしたりすることで自分の考えに自身を持たせる。				
⑤子どもは、わかるまで（できるまで）粘り強く真剣に物事に取り組んでいる。	28	54	18	0	粘り強く学習する子どもたちと、わかるまで指導しきる教員との力を合わせ、すべての子どもたちにつけるべき学力を保障していきたいと思います。各ご家庭でも子どもへのモチベーションアップをお願いします。

羽束師の教職員は子どもの学力を高めるために、力を合わせてがんばりました。年度末各分掌で成果と課題を出し合い、来年度につなげようとしています。小学校時代につけた力は学校目標の「夢を実現する力を持った、学びの集団作りをめざして」の「夢を実現する力」にすべてつながります。学校と家庭が共同で子どもの課題を共有しながら学びを進めることが何より効果のある学校になることを信じて来年度もがんばります。